

成人おめでとう

今年は2,631人が大人の仲間入りに

輝やかなしい20歳の新春を迎えられた人たちを、心からお祝いするために、今年も1月15日午前9時から吉原市民会館、午前10時30分から富士文化センターの2会場で成人式が開かれます。

ことし大人の仲間入りする成人は、昭和34年4月2日から昭和35年4月1日生まれの方々と、市内の該当者は2,631人、うち男1,336人、女1,295人です。

当日は、式場が2会場になるため、どちらの会場へ出席してもよいことになっていますが、富士文化センターへは鷹岡・岩松・富士北・富士南・田子浦・元吉原地区

の人たちが出席されるよう呼びかけています。

また、大学生などで、東京その他に住民登録をもっている人でも、富士市で成人式が受けられますので、直接会場へお出かけください。

式は、両会場とも開会に先立ち縁起のよい「神楽」が保存会のみなさんによって披露されます。

このあと、渡辺市長の式辞、記念品の贈呈、加藤市議会議長のお祝いのことば、山田選挙管理委員会委員長の「新有権者に望む、あいさつ」などが予定されています。

ふるさとのむかし話



大淵中学校の北側から大淵新田に通じる細い山道があります。むかしは、大淵本村や中野村から大淵新田へいく、たった一本の道でしたが、細い道の両側は、うす暗いほどの林になっていました。

ですから村の人たちは、ここを通るのがなんとなくいやでした。その林の中に、いつか一匹のずるがしこい大猿がすみついていました。猿のむれから仲間はずれにされて、一人ぼっちですんでいたのが、だんだん心がすさんだのか、悪いいたずらをするようになりました。この道は、すこし坂道になっていて、中ほどに大きなケヤキの木がありました。その枝が道の上においかぶさって道をなお暗くしていました。

大猿が火打ち石で火遊び

その大猿は、どこでおぼえたのか、火打ち石で火をおこすことを知っていました。あるとき、そのケヤキの木にのぼって、人が通るのを待っていました。しばらくすると、一人の女の人が荷物をしょって下を通ったので、大猿は、ツケ木に火をつけて、女の人の上から落しました。頭の上から火が降ってきたので、びっくりした女の方は、悲鳴をあげてにげていきました。

猿は、それが面白くて、たまらなかったもので、それか

ら毎日いたずらをくり返して、通行人をおどかしていました。

猿のいたずらが、だんだん評判になって、火を落して通る人をおどろかしたのは、大猿のしわざとわかりましたので、村人は大勢で猿を追い回して、とうとう生けどりにしてしまいました。

命乞いし、道の番を

人々が「殺してしまおう」というのを聞いた大猿は、両手でおがみながら「これからは、決していたずらしないから」といいました。「こんどやったら、殺してしまうぞ」というと、大猿は、涙を流してあやまりました。

殺すのも、ふびんだと思った村人は、そのまま放してやりました。

それから間もなく、この大猿は、毎日ケヤキの根もとの大きな石にすわって、道の番をするようになりましたので、中野村から大淵新田へいく人たちは、うす暗い道でしたが、安心して通るようになったといいます。

いつか、この坂道を人々は「猿番道」(さるばんどう)と呼ぶようになりました。



【猿が番をしたと伝えられる岩(右手前)】

昭和55年富士市消防出初式

1月13日(日)
8:30~

・式典会場 市役所南側道路
・消防演技 " 北側駐車場
・分列行進 吉原本町通り